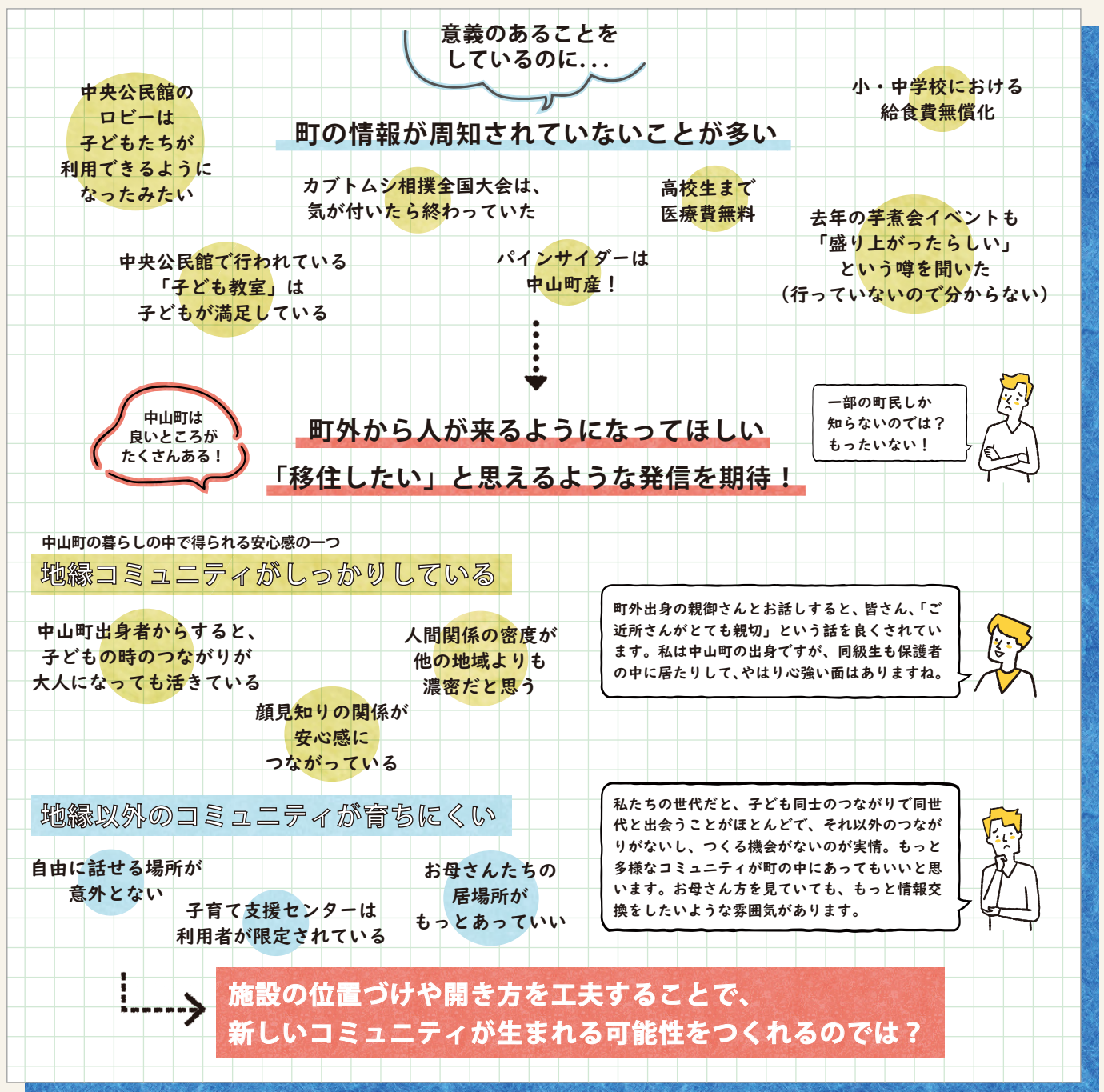


皆さんの「声」を聞かせてください！

長崎小学校の保護者の話

今回は、長崎小学校の保護者の方々にお話を伺いました。子育て環境への満足度は一定程度ある一方で、車があることが大前提の環境であることや、新しいコミュニティが生まれにくい状況に対して不安もあるようです。子どもたちが中山町に誇りを持ちながら暮らせるように、町の良いところを積極的に発信してほしいという意見も多く上がりました。



1

もっと積極的な情報発信を！

町の中で開催されているさまざまなイベントについて、「気づいたら終わっていた」ということが多いそうで、「もっと積極的な広報を展開してほしい」という声が上がりました。イベント以外でも、例えば、中央公民館で行われている「子ども教室」や、「小・中学校における給食費無償化」「高校生までの医療費無料」といった子育て世代にとって嬉しい行政サービスも「一部の町民し

か知らない」という意見が出ました。「せっかく意義のある取り組みをしているのに、広報しないのはもったいない」ということで、中山町の取り組みが広く知られることで、町外から人が集まるようになり、町内から町外に出る人が多い現状を脱却できるのではないかと期待も寄せられました。

2

地縁コミュニティに安心感

子育て世代には中山町出身者も多く、子どものころからのつながりが大人になっても活きており、人間関係が世代を越えて緩やかにつながっていることについて「安心感がある」という意見がありました。地縁で育まれてきたコミュニティの中に、町外出身者も子どもの保護者という立場で加わり、どんどん地縁コミュニティが広がっていくことも中山町の良いところとして

評価する声が聞かれました。

男性陣にとっては、消防団への加入も地縁コミュニティを強化するきっかけになっており、「コミュニティが濃い感じはするけれど、煩わしいと思ったことはない」ということで、地縁コミュニティの存在が自分自身にとっても子どもにとっても、プラスに作用していることがうかがえました。

3

地縁以外のコミュニティが育ちにくい

地縁コミュニティがしっかりしている一方で、「それ以外のコミュニティがなかなか生まれない」という意見もありました。子どもが介在する形で親同士のコミュニティは形成されますが、それ以外のきっかけを持ちにくいという話でした。子育て支援センターの利用は未就学児とその保護者に限定されているため、小学生の保護者は利用することができません。町の中に小学

生以上の親御さんが子育てのことや教育のことを自由に話せる場がないというのが、中山町の現状であることが分かりました。

「コミュニティ形成のために施設は利用しない」という話もあり、コミュニティ形成を目的化するのではなく、結果的に新しいコミュニティが育まれるような施設のあり方も検討する必要があると感じました。

公共施設再配置計画については、その必要性が「第6次中山町総合発展計画」にて説明されています。以下 URL または、右記コードよりご確認ください。

◎中山町「第6次中山町総合発展計画を策定しました」

<https://www.town.nakayama.yamagata.jp/soshiki/seisaku/machidukurisuishin/214.html>



【主催】中山町総務広報課防災安全対策室（中山町大字長崎 120 番地／電話：023-662-4899）

【制作】東北芸術工科大学デザイン工学部企画構想学科 田澤ゼミ

〈2025 年 3 月発行〉